

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局 ㊟227 横浜市青葉区若草台8-28 Fax 045-962-0866

ボストンとの絆を強めたい

代表幹事 藤崎博也

日本ボストン会の皆様に、新任の代表幹事としてご挨拶申し上げます。昨年9月の本会の幹事会で、次期の代表幹事の候補としての打診を受け、謹んでお引受けするとお答えしたわけですが、やむを得ない国際的な先約のために、10月25日の総会の折には海外出張中で出席することが出来ず、欠席のままご承認を頂くことになりました。ここにあらためて当日の欠席のお詫びと、皆様のご支持への御礼を申し上げます。

さて、私が今期の代表幹事を仰せつかったのは、MITとの関係からですので、この機会に、日本とMITとの関係、特に同窓会としての日本MIT会 についてご紹介し、併せて少々自己紹介をさせていただきたいと思えます。

MIT と日本との交流の歴史は極めて古く、MIT の前身のBoston Tech が創立されて10年後の1871年には、日本からの最初の留学生、本間英三郎氏が2年生として入学を許可され、3年後には土木の学士号を得ています。これは、アメリカ大陸以外からの留学生としては最初と記録されています。日本からの留学生で2番目に学位を取得したのが団琢磨氏で、後年、三井の理事長となり、経済界の重鎮として国際的にも活躍しましたが、同氏がMIT の創立50周年にあたる1911年に、日本のMIT 同窓生に呼びかけて設立したのが日本MIT 会の始まりです。

その後、団氏の暗殺、第2次大戦などがありましたが、会は有志によって引き継がれ、現在では、留学生だけではなく、客員教授や客員研究員として滞りした人々も希望により入会することができ、約2000人の会員を擁する大きな組織になっています。

また、1970年代からは、日本の企業による寄付講座が設けられるようになり、現在では、十指に余る寄付講座と産業学際会を通じての寄付が、MIT の教育と研究に少なからず貢献しております。

私とボストンとの最初のおつきあいは、東京大学の大学院学生であった頃に、フルブライト奨学金を受けて、1958年にMIT に留学したのがきっかけです。往路は氷川丸による船の旅でしたが、岡倉天心の助手としてボストン美術館に勤務され、のちに東洋美術部の部長をなさった富田幸二郎氏夫妻が同船しておられ、ボストンの歴史や文化、岡倉天心のことなど話してくださいました。このたび名古屋ボストン美術館の設立の計画を知り、ほとんど40年前の、富田氏との奇遇を懐かしく思い起こしております。

このときにはボストンに2年半ほど居りましたが、その間にヨーロッパでも研究する機会に恵まれました。音大を卒業して間もない頃の小沢征爾氏がタンゲルウッドに来られたのが1959年の夏、また、ジョン・F・ケネディが大統領に選ばれたのが、1960年の秋、いずれも私がボストン滞在中のことです。その後のボストンとのお付き合いもMIT が主ですが、合計20回以上訪れております。

最初の訪米から帰ってまもなく、日本MIT 会のお世話をすることになり、1982年から1990年まで、第8代の会長をつとめました。その間、1986年には会の創立75周年を記念する行事を催し、それまでの歴史をまとめた記念出版も行いました。後任の会長は、キャノンの御手洗肇さんに引き受けていただいたのですが、惜しくも1995年に亡くなられ、その後は神部信幸さんが会長をつとめておられます。

このようなわけで、ボストンは私にとって魂の故郷ともいえるほど、懐かしい青春の思い出に満ちた地です。このたび、ご縁あって本会のお手伝いをさせていただくことになり、明治のはじめから連綿と続いている日本とボストンとの絆を強めるのに、いささかでもお役に立てればと思っておりますので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。

(東京大学名誉教授・東京理科大学教授)